

民主化闘争情報

No. 872
2013年1月16日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

JR北海道労働組合(JR北労組)は1月15日、JR総連・北海道旅客鉄道労働組合(北鉄労)に対し、国際運輸労連(以下、ITF)「路面運輸部会総会」および「鉄道部会総会」に関する、北鉄労情報「ひびきVol.417」掲載記事について、公開質問状を送付した。

JR総連・北鉄労が虚偽報告！ ITF部会総会のJR総連動議が満場一致採択??

ITF「路面運輸部会総会」「鉄道部会総会」は、昨年11月12日～16日にカナダ・トロントで開催され、JR連合から井口事務局長、上村企画部長、東海ユニオン池上書記長、JR西労組中嶋副委員長が参加した。JR総連は、出村書記長、山田国際部長ら5名が参加。交通運輸労働者の労働組合権擁護、原発のない社会を目指す、と題する動議など、両部会で計6つの動議を提出し、動議の補足説明では、浦和電車区事件の不当弾圧などに触れ、動議賛同を呼びかけた。これに対しJR連合は、「動議の趣旨である、労働組合権擁護自体を否定するものではないが、浦和電車区事件は政府・使用者が労働組合を弾圧する事件と異なり、労働組合が労働者を弾圧した事件であり、動議の趣旨とは異なる」旨の発言を行い、浦和電車区事件を前提とする動議の不当性を主張した。その結果、交通運輸労働者の労働組合権擁護は路面運輸部会で動議撤回という前代未聞の取り扱いとなったほか、鉄道部会では未採択、執行委員会預かりとなった(原発動議も鉄道部会では執行委員会預かり)。

ところが、北鉄労情報「ひびきVol.417」では、これら動議について「(中略)JR総連が提出した動議は修正されることなく、世界の労働者に支持され、満場一致で採択されました。(中略)」と事実と全く異なる報告がなされているのだ。北鉄労から両部会総会に参加した方もいたはずだが・・・

これら虚偽報告に対して、JR北労組は、①動議が修正されず採択されたとする根拠、②他の国からJR総連の主張する発言があったとする根拠、を示し、両部会における動議の取扱いについて、事実に基づく訂正文を掲載するよう、公開質問状で求めたのだ(回答期限1月22日)。

北鉄労は「脱原発、反TPP、反増税」をテーマとする職場討議資料を作成!?

さらに、北鉄労は「脱原発」「反TPP」「反増税」をテーマとする職場討議資料なるものを昨年12月に発行したようだが、石勝線脱線火災事故の反省と教訓に立った安全問題や職場環境改善、地方路線の活性化など、優先すべき討議課題はないのだろうか。虚偽報告に振り回されるだけでなく、優先すべき課題が放置されているJR総連・北鉄労組合員に心から同情して止まない。

JR連合は嘘はつきません。勇気を出してJR連合に総結集しよう!!